

3 情報計画

- 1 情報量についての考え方
- 2 多言語対応の考え方
- 3 表記の基準
- 4 公共交通サインの考え方

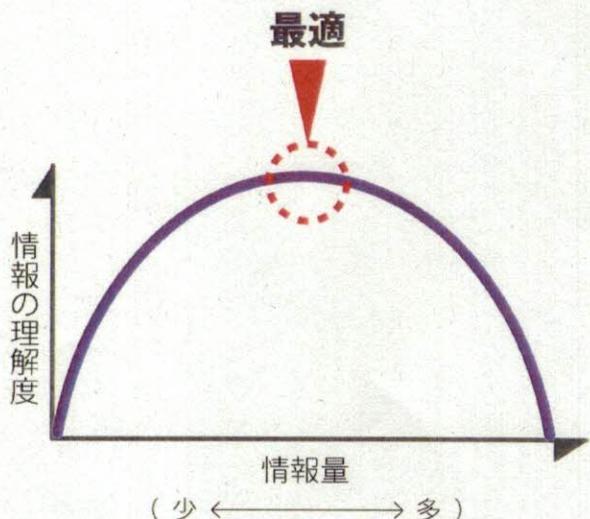
3 -1) 情報量についての考え方

各種サインに表示する情報量をコントロールし、利用者にわかりやすいサインを目指す。同時に、情報量の補完や情報の理解を促す工夫をする。

情報量のコントロール

情報の優先順位を明確にする

- ・その場所で一番重要な情報を絞り込む。



情報量の補完や情報の理解を促す工夫

最適な場所での情報配置

- ・公共交通の降り場での最初の一歩を促すサイン等、利用者の立場に立った情報配置
- ・交差点での通り名サインの設置

表示のグラフィックデザインの工夫

- ・統一的なデザイン
- ・ピクトグラム等、図記号を活用する。
- ・文字の大きさやレイアウトのメリハリをつける。
- ・ユニバーサルデザインに配慮した配色

3 -2-1) 多言語対応の考え方

多言語対応については、表示の情報量とのバランスを考慮し、
2箇国語表記とする。

2 箇国語表記

(日本語・英語)

※但し、必要に応じて4箇国語表記（日本語・英語・ハングル・中国語（簡体字））
とする。（案内サインの地図記号凡例等）

〔参考〕

A. 2箇国語表記 (日本語・英語)

メリット	デメリット
・4箇国語表記と比較してサイン表示がシンプルでわかりやすい。	・英語に不慣れな人には情報が理解できない場合がある。

B. 2箇国語+最小限の外国語表記 (日本語・英語+その他の言語)

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none">4箇国語表記と比較してサイン表示がシンプルでわかりやすい。最小限の表記でも、その国人にはわかりやすい。	<ul style="list-style-type: none">他の言語が増え、3箇国語表記となる。設置場所によって、他の言語を使いわけるとすると、地域によって外国語表記に違いが出てしまう。

C. 4箇国語表記 (現状は、日本語・英語・ハングル・中国語(簡体字))

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none">多くの外国人に対して母国語で情報提供できる。もてなしを受けている満足感がある。	<ul style="list-style-type: none">サイン表示が煩雑かつ文字の大きさが小さくなる。特に日本人にとってわかりにくい。内容チェックなど、製作する時の難易度が高い。

[参考]

ローマ字表記についてはヘボン式を用いる。

日本語音					ヘボン式ローマ字つづり				
あ	い	う	え	お	a	i	u	e	o
か	き	く	け	こ	ka	ki	ku	ke	ko
さ	し	す	せ	そ	sa	shi	su	se	so
た	ち	つ	て	と	ta	chi	tsu	te	to
な	に	ぬ	ね	の	na	ni	nu	ne	no
は	ひ	ふ	へ	ほ	ha	hi	fu	he	ho
ま	み	む	め	も	ma	mi	mu	me	mo
や	ゆ	ー	め	ー	ya	yu	—	ye	—
ら	り	る	れ	ろ	ra	ri	ru	re	ro
わ	ー	ー	ー	ー	wa	—	—	—	—
ん	ー	ー	ー	ー	n	—	—	—	—
が	ぎ	ぐ	ぎ	ご	ga	gi	gu	ge	go
さ	じ	ず	ぜ	ぞ	za	ji	zu	ze	zo
た	ぢ	づ	で	ど	da	ji	zu	de	do
ば	び	ぶ	べ	ほ	ba	bi	bu	be	bo
ぱ	ひ	ふ	へ	ほ	pa	pi	pu	pe	po
き	ゅ	き	ゅ	き	kya	kyu	kyo	—	—
し	ゅ	し	ゅ	し	sha	shu	she	—	—
ち	ゅ	ち	ゅ	ち	cha	chu	cho	—	—
に	ゅ	に	ょ	ニ	nya	nyu	nyo	—	—
ひ	ゅ	ひ	ょ	ヒ	hya	hyu	hyo	—	—
み	ゅ	み	ょ	ミ	mya	myu	myo	—	—
り	ゅ	り	ょ	リ	rya	ryu	ryo	—	—
ぎ	ゅ	ぎ	ょ	ギ	gya	gyu	gyo	—	—
じ	ゅ	じ	ょ	ジ	ja	ju	jo	—	—
ぢ	ゅ	ぢ	ょ	ヂ	ja	ju	jo	—	—
ひ	ゅ	ひ	ょ	ヒ	hya	hyu	hyo	—	—
ひ	ゅ	ひ	ょ	ヒ	pya	pyu	pyo	—	—

3-2-2)多言語対応の考え方

英語表記の方法

国の一基準(国土交通省の観光活性化標識ガイドライン(H17))に基づき、固有名詞はローマ字、普通名詞は英語で表記する。

寺院・神社など京都の観光地や観光施設等の名称はすべて固有名詞として扱う。

観光活性化標識ガイドライン(H17) 国土交通省より

図表II-8 英語(ローマ字)の表記の基準例

表記の基準	表記の例	
■ 固有名詞はローマ字で、普通名詞部分は英語に直して表記する。	日比谷公園	Hibiya Park
■ 日本語のローマ字表記についてはヘボン式を用いる。		
■ 固有名詞のみによる英語表記にはローマ字つづりの後に～River、Lake～などの意味が伝わる英語を補足する。ただし、Mt.Fujiのように上記のような表記方法でない方法が定着しているものについてはこの限りでない。	淀川 芦ノ湖 立山	Yodogawa River Lake Ashinoko Mt. Tateyama
■ 町名は切り離さずにひと続きに表記する。 「〇丁目」はアラビア数字の表記のみとする。	霞が関二丁目	Kasumigaseki 2
■ 略語が慣用化されている場合は略語を用いることができる。	Station	Sta.
■ 施設名は地域において統一した英語表記を使用する。		

表示対象	具体例	
山・川	大文字山 / 比叡山 鴨川 / 桂川	Mt.Daimonji-yama / Mt.Hiezan Kamogawa River / Katsuragawa River
橋	五条大橋	Gojo-ohashi Bridge
鉄道駅	京都駅 / 清水五条駅 / 京都市役所前駅	Kyoto Sta. / Kiyomizu-gojo Sta. / Kyotoshiyakusho-mae Sta.
通り名	河原町通	Kawaramachi-dori St.
観光集客施設	下鴨神社 / 北野天満宮 / 平安神宮 東寺 / 清水寺 / 永観堂 / 知恩院 / 天授庵 二条城	Shimogamo-jinja Shrine / Kitano-tenmangu Shrine / Heian-jingu Shrine Toji Temple / Kiyomizu-dera Temple / Eikando Temple / Chion-in Temple / Tenju-an Temple Nijo-jo Castle

[参考] 英語表記の方法

A. ローマ字 + 英訳	Shimogamo Shrine	日本語に馴染みのない外国人にも理解されやすい
B. ローマ字 + ローマ字	Shimogamo-jinja	外国人に対してJinja=Shrineという認識(学習)が必要
C. ローマ字 + ローマ字 + 英訳	Shimogamo-jinja Shrine	外国人に対して、施設の機能や種類を明快に表現



尋ねられた日本人は質問の意味がわからないことがある。



ローマ字の情報をもとに、人(日本人)に尋ねることが出来る。

*財団法人 都市づくりハブリックセンター
「歩行者のためのコミュニティーサイン(H5)より

3 -3-1) 表記の基準

サインに使用する判読性の高い書体として、以下を使用する。

[日本語・英語・ハングル・中国語（簡体字）を参考例として]

*以下には標準的な文字の太さ（Medium）の書体を示す。使用する文字の大きさ等に応じて、太い（Bold）書体、細い（Regular）書体を使い分け、判読性を高める。

*サインにおいては以下の書体をベースとし、日本語についてはUDフォントの使用を推奨する。

UD（ユニバーサルデザイン）フォントは既存のゴシック体や明朝体をベースに、「視認性」（文字一つひとつの構成要素の見やすさ）、「判読性」（他の文字と誤読しにくく、判別しやすい）等、新たに改良が加えられた書体である。

日本語書体例

A-OTF新ゴPro

Medium

日本に京都があってよかったです

A-OTF UD新ゴ Pro

Medium

日本に京都があってよかったです

英語書体例

Helvetica

ヘルベチカ

Medium

ABCD fghijk 012345/.,

Univers

ユニバース

55 Roman

ABCD fghijk 012345/.,

Frutiger

フルティガー

55 Roman

ABCD fghijk 012345/.,

ハングル書体例

*ゴシック体の一例です

Apple Gothic

アップルゴシック

일본에 교토가 있어서 자랑스럽다

中国語書体例（簡体字）

*ゴシック体の一例です

Hei Regular

ハイレギュラー

我为日本有京都而自豪

华文黑体

Regular

我为日本有京都而自豪

3-3-2)表記の基準

ピクトグラム

JIS案内用図記号の中から必要最小限のピクトグラムを使用する。
JISないものについては、京都市で作成したピクトグラムを使用する。

●はJISに無いため、オリジナルで作成したピクトグラム

交通施設

鉄道/鉄道駅
Railway/Railway Station



バス/バスのりば
Bus / Bus Stop



タクシー/タクシーのりば
Taxi / Taxi Stop



駐車場
Parking



駐輪場
Cycle Park



文化・観光施設

寺院
Temple



神社
Shrine



博物館・美術館
Museum



歴史的建造物
Historical Monument



歴史的建造物2
Historical Monument2



*城を表す場合は、この
ピクトグラムを使用

水族館
Aquarium



動物園
Zoo



公共施設・一般施設

案内所



*情報提供拠点(有人)

情報コーナー



*情報提供拠点(無人)
(案内サイン等)

警察



郵便



*郵便局を表す場合は、
このピクトグラムを使用

病院



ホテル/宿泊施設
Hotel / Accommodation



お手洗



Toilets



車椅子対応お手洗

公園



陸上競技場



Athletic stadium

その他

広域避難場所



Safety Evacuation Area

エレベーター



Elevator

喫煙場所



Smoking Area

*ピクトグラムを使用する場合、高明度色の地に低明度色の図形を表現(ポジ表現)することも、また低明度色の地に高明度色の図形を表現(ネガ表現)することもできる。

(※広域避難所は防災上の観点から図記号の統一化がされているため、除く)



ネガ表現



ポジ表現

3 -3-3) 表記の基準

地図表記での地図記号

現在地

方位
Compass



現在地
You are here



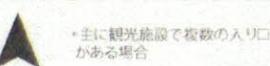
地下鉄出入口
Subway Entrance / Exit



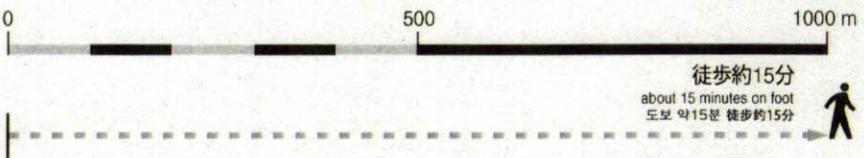
地下鉄駅番号
Subway Station number



施設出入口/門
Gate Way

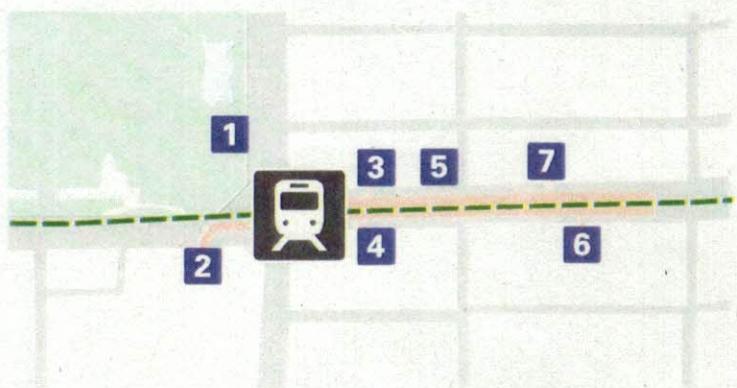


スケール
Scale



地下鉄出入口の使用例

地下鉄出入口
Subway Entrance / Exit



鉄道駅を表すピクトグラムと一緒に出入口番号を表記

施設出入口/門の使用例

施設出入口/門
Gate Way



主に観光施設で、出入口にあたる箇所に表記

3 -3-4) 表記の基準

地図の表示エリアの考え方

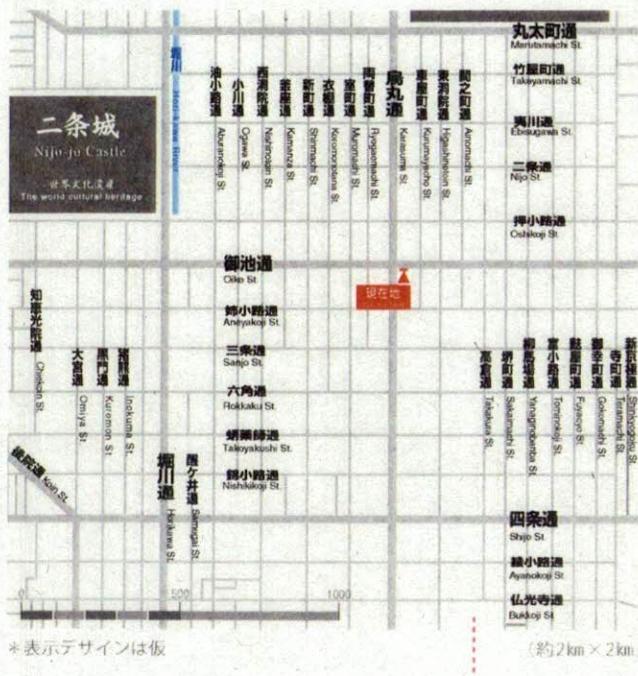
周辺案内図

周辺案内図は地理の理解や、目的地へのルートを判断する、歩行圏の詳細な案内を目的とする。

したがって、表示範囲を**2km**四方程度、縮尺は約**1/3500**を目安に、情報量の多少を見極め、場所や状況に応じて設定する。

参考例

周辺案内図

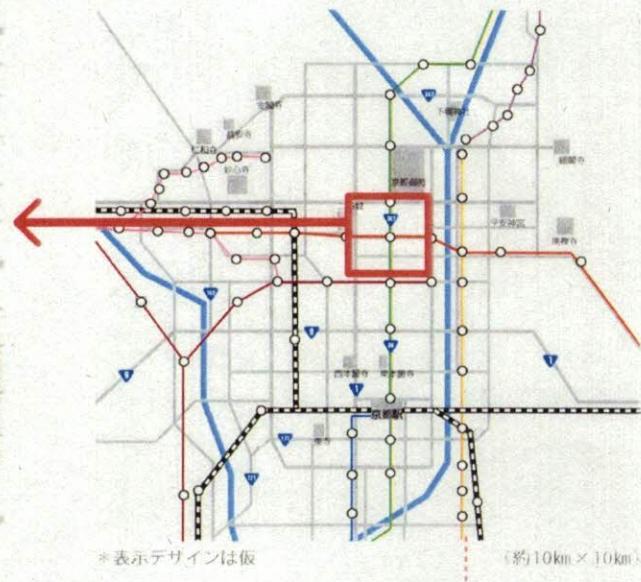


広域案内図

広域案内図は京都市全体の構造や交通機関の路線網などを理解し、地域全体の概略案内を目的とする。

したがって、表示範囲を**10km**四方程度、縮尺は約**1/45000**を目安に情報量の多少を見極め、場所や状況に応じて設定する。

広域案内図



周辺案内図

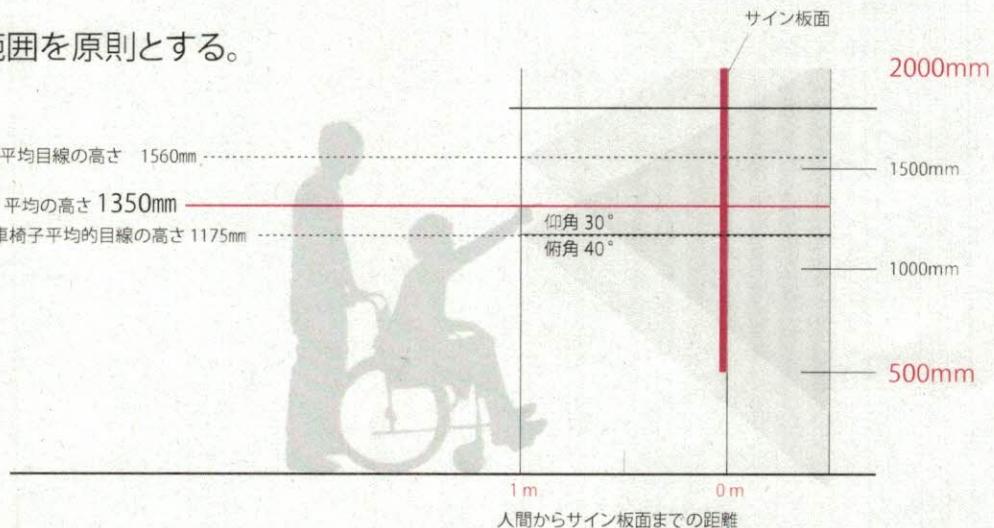
広域案内図

3-3-5)表記の基準

掲出位置の基準

表示の掲出高さ(見やすさの視点)

案内サインの掲出高さは、地面から1350mmを中心に、最高高さを2000mm、最低高さを500mmの範囲を原則とする。



*公共交通機関の旅客施設に関する移動円滑化整備ガイドライン(H19) 国土交通省より

表示の掲出高さ

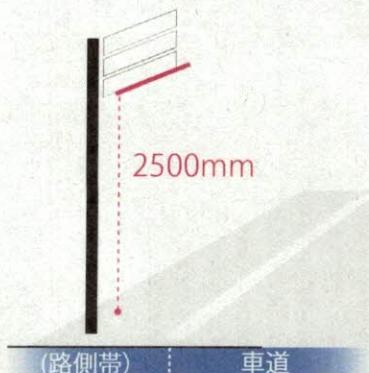
誘導サイン・通り名サインについては、歩道側のサイン板面は下端を地面から2500mm以上に設置する。



車道に設置する場合は、路側帯の中に設置する。

道路上空に標識板を設置する場合は、標識板の最下部と路面との距離を2500mm以上とする。

*道路管理者が管理する観光案内標識の設置要綱(京都市)より



3 -3-6) 表記の基準

案内サイン・誘導サインにおいて、必ず掲載する情報

案内サイン

案内サイン表示対象			備考
ベース図	現在地	現在地	わかりやすい表示を心がける
	方位・距離スケール	方位（北方向） 距離スケール	わかりやすい表示を心がける・目立つところに大きく表示
施設	交通機関・施設	鉄道駅・鉄道路線 鉄道出入口・地下鉄駅番号 バスターミナル バスのりば 空港バス・長距離バスのりば タクシーのりば 駐車場 駐輪場	原則としてすべて（各路線の色分け、路線の端部には至〇〇駅の表現を行う） 原則としてすべて・ピクトグラムのみで表記 主要な施設
	観光集客施設	名所・旧跡 寺院・神社等 文化施設・美術館	主要な施設
	その他の施設	警察署・交番 郵便局 医療施設 大学 公衆トイレ 公衆トイレ（車椅子対応） 地上地下接続等のエレベーター 広域避難場所 その他	原則としてすべて・ピクトグラムのみで表記 主要な施設 原則としてすべて 屋外や公共施設で設置されているもの・ピクトグラムのみで表記 原則としてすべて・ピクトグラムのみで表記 ランドマークとなる施設

誘導サイン

誘導サイン表示対象			備考
方位・距離スケール	方位（北方向） 時間（距離）		わかりやすい表示を心がける・目立つところに大きく表示
交通機関・施設	鉄道駅・鉄道路線 地下鉄駅・地下鉄路線 バスのりば		原則としてすべて 主要なバスのりば
観光集客施設	名所・旧跡 寺院・神社等 文化施設・美術館		主要な施設

3-4-1) 公共交通サインの考え方

公共交通のピクトグラムについては、デザインや使用方法を統一して煩雑なイメージを改善する。

推奨するピクトグラム

鉄道/鉄道駅



バス/バスのりば



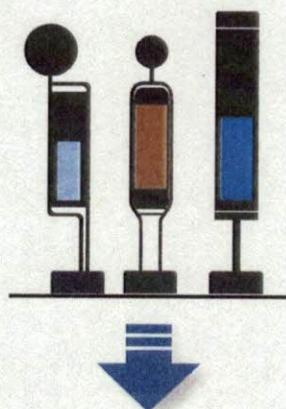
*ピクトグラムには鉄道会社名を日本語と英語で併記する

バスのりば

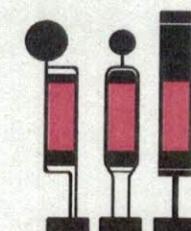
バスのりばは出来るだけデザイン（本体の形状や表示部）を統一し、煩雑なイメージを改善する。

現状のバスのりば

本体の形状や頭頂部サイン、表示部等に統一感がなく、利用者に煩雑な感じを与えている。

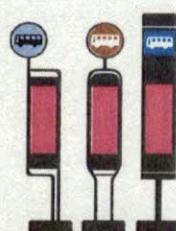


■ 表示部（時刻表等）



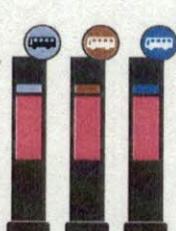
A.

表示部のデザインを統一する。



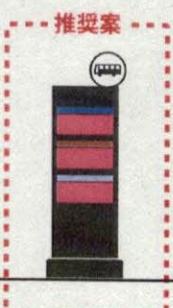
B.

頭頂部のピクトグラムと表示部のデザインを統一する。



C.

本体の形状や表示部のデザインを統一する。
(個別型)



D.

本体の形状や表示部のデザインを統一する。
(集約型)